

参考資料

(スーパー産学官連携本部の体制事例)

スーパー産学官連携本部の体制事例

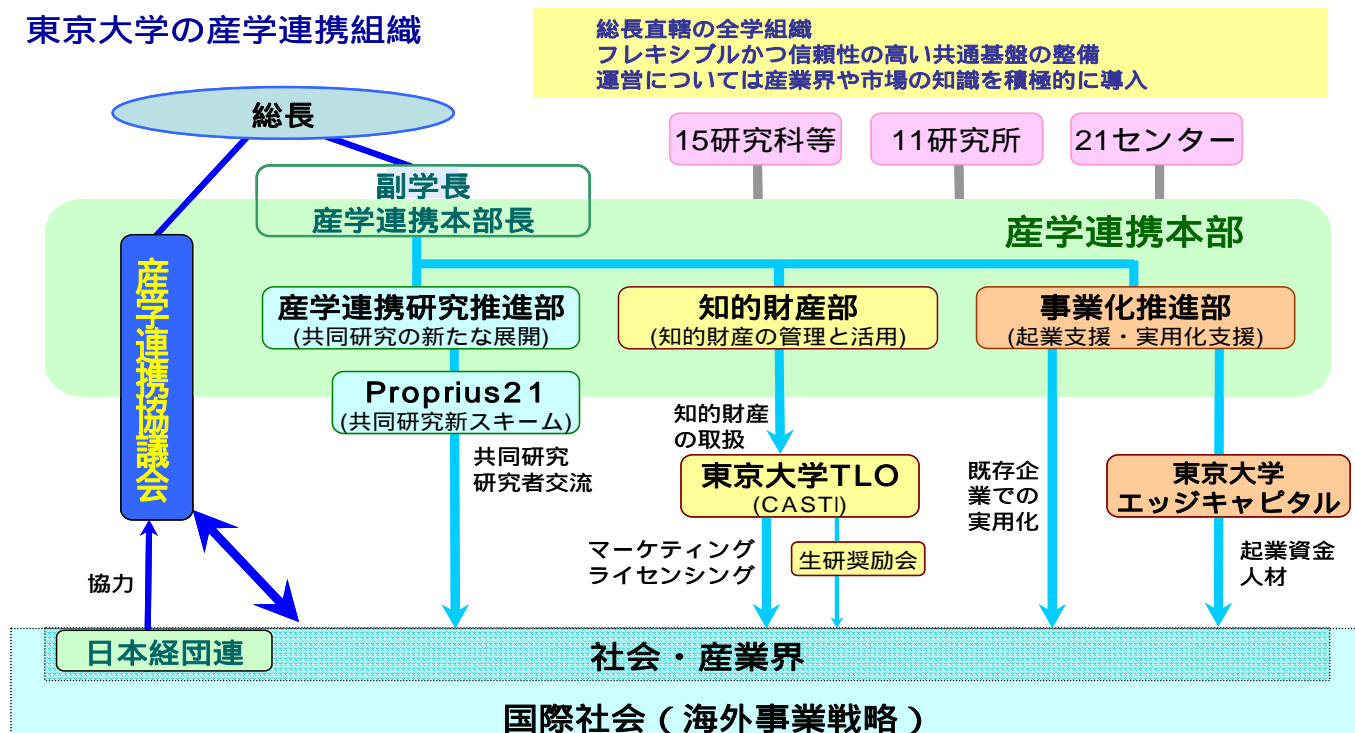
- 大学知的財産本部を核とした産学官連携の新しいスタイル -

東京大学：産学連携本部

平成16年4月より全学組織として「産学連携本部」を設置。既存の共同研究に加え、共同研究の新たな形態を模索し、その展開を図る「産学連携研究推進部」、起業化・実用化を支援する機能を持つ「事業化推進部」、そして、大学知的財産整備事業と直結し、知的財産の効果的・効率的な管理と活用を図る「知的財産部」の三部体制により、「知的財産部」は他の二部と密接な連携をとりつつ、産学官連携事業の「中流域」として重要な位置にある。

産学連携本部は、全学組織として知的財産に関連する上流（知的財産の創出に関わる産学官連携、共同研究、受託研究等の推進）から、下流（知的財産の活用に関わるインキュベーションや起業化並びに既存企業での事業化等）に至るまでの共通基盤を提供することをその役割とする。平成17年1月には、日本経団連の協力により、「産学連携協議会」が発足、平成18年1月現在では460社を超える企業等の会員が入会、本学との交流の場を形成している。スーパー産学官連携本部事業の採択を受け、Proprius21事業の更なる推進をはじめとした「産学連携研究推進部」機能強化のため、特任教員を新規採用。また、産学連携本部事業の拡大に伴う事務量増加に対応した事務組織の拡充等を実施。これらに加え、国内のみならず国際社会に対する情報発信を積極的に行い、外国企業等との共同研究を拡充していくこととしている。

東京大学の産学連携組織

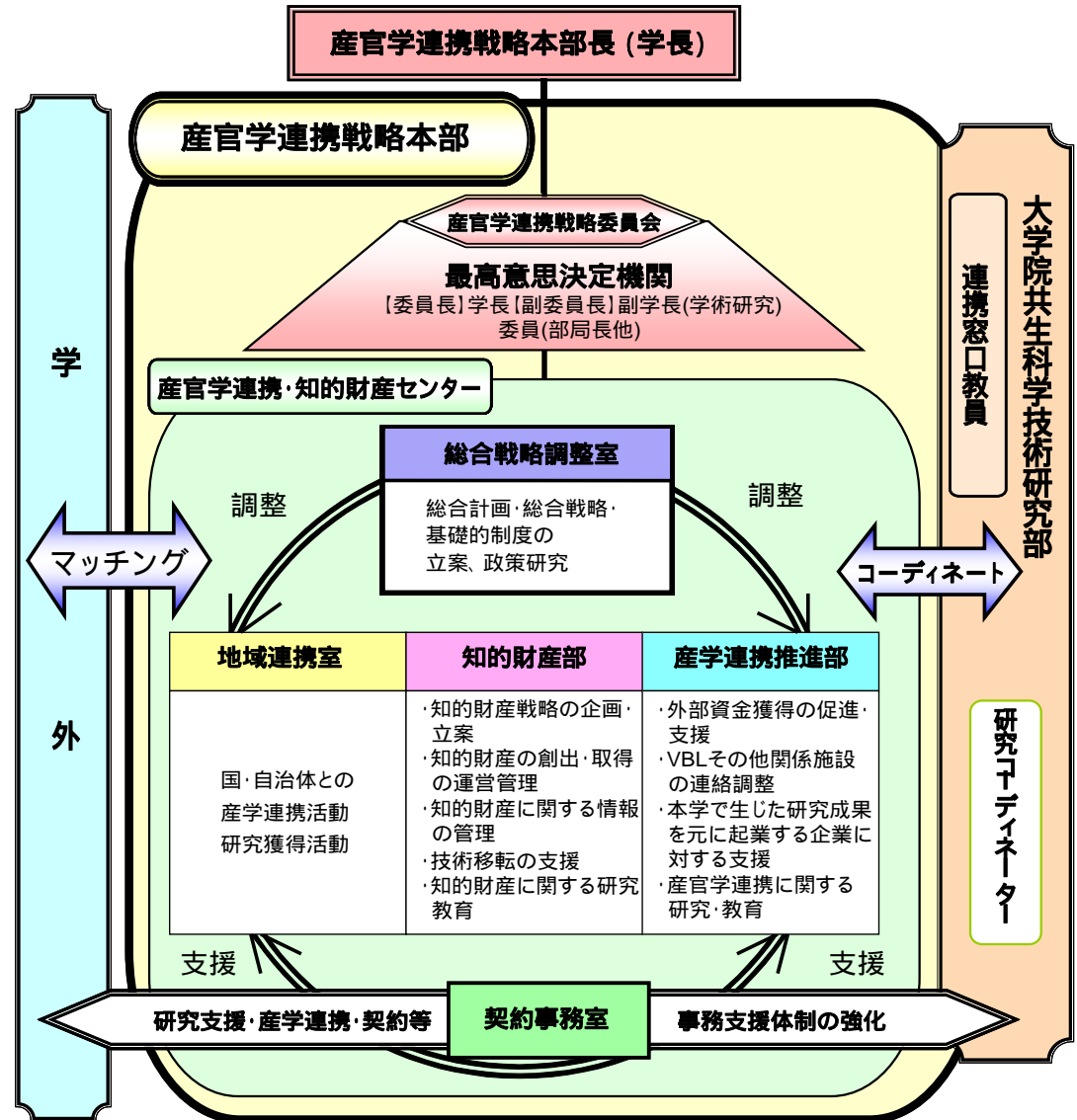


スーパー産学官連携本部の体制事例

- 大学知的財産本部を核とした産学官連携の新しいスタイル -

東京農工大学・産学官連携戦略本部

- 産学官連携は、大学の本来のミッションである3本柱：
 - 教育：インターンあるいは事例ベース学習
 - 研究：いち早いニーズの発掘とシーズの検証
 - 社会貢献：新技術・産業創出
- のエンジン
 - 学長のリーダーシップの下に推進
- 科研費や競争的資金による基礎研究成果を
実用化に繋げる
 - 基礎研究からのコーディネート人材を
大学院研究部内に配置
- センターが組織的に学外とのマッチングについて
コーディネートし、コンソーシアムを形成
 - 例：次世代モバイル用表示材料技術研究組合
- ガバナンス・管理体制の強化
- インキュベーションの推進 「農工大ファンド」設立
- 国・自治体との連携強化 「地域連携室」設置
- 外部人材に適正なインセンティブと評価方式を導入
- 知財本部事業後の体制に向けた準備



スーパー産学官連携本部の体制事例

- 大学知的財産本部を核とした産学官連携の新しいスタイル -

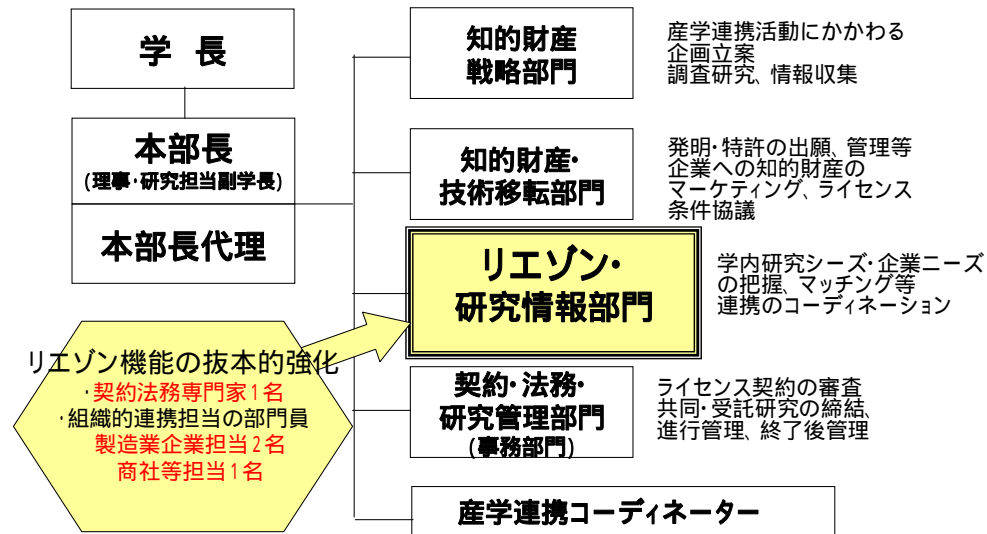
東京工業大学・スーパー産学官連携本部

東京工業大学は、大学知的財産本部整備事業の開始当初より、教員による発明(知財)を産学連携の核として、民間企業等との共同研究の形成・実施、更なる知財の創出を図るという共同研究重視型の知的財産活用モデルを目指し、共同研究契約等担当の事務部門も取り込んだ組織として、「産学連携推進本部」を設置している。

「スーパー産学官連携本部の取組」としては、このような先駆的なモデルをさらに発展させるため、共同研究の組成及びマネジメントに係るリエゾン機能の抜本的強化を図り、大型共同研究及び組織的連携による共同研究等の組成を推進することとした。

このため、組織的連携等を専門に担当するリエゾン部門員3名と、民間企業等で各種契約等に従事した経験のある契約法務専門家1名を新たに雇用し、これまで以上に迅速に学内外の関係者に対応し、企業ニーズの十分な把握と学内シーズの適切な探索をもとに、大型共同研究 / 組織的連携研究等を推進している。

産学連携推進本部 組織図



スーパー産学官連携本部の体制事例

- 大学知的財産本部を核とした産学官連携の新しいスタイル -

京都大学・国際イノベーション機構(IIO)

全学の産学官連携活動の一層の推進および対外的窓口の一元化を図るため、平成17年4月「国際イノベーション機構(IIO)」を設置。IIOは起業家マインドを持った学生や研究者の育成を行う「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)」、学問分野の融合及び新産業創成を支援する国際融合創造センター(IIC)、知的財産の管理・運用を行う知的財産企画室(IPO)の3組織を統合。更に、同年8月、スーパー産学官連携本部整備事業により「スーパー連携室」を設置し、学内外組織間の有機的連携の強化・より戦略的な取り組みにより、大学を核とした国際的イノベーション創出を目指して活動。

産学官連携推進部：包括的産学融合アライアンス等大型産学官連携プロジェクトを企画・推進

知的財産部：年間約600件の発明評価、特許出願・維持・活用など知的創造サイクルの形成

VBL：ベンチャー精神に富む学生の教育・育成、大学発ベンチャー支援

スーパー連携室：戦略的な国際・国内連携、組織間連携、京大支援ベンチャーファンド形成等

その他、IIOは、京都ナノテク事業創成クラスター、桂イノベーションパークの形成、芸術・文化・科学技術が融合した京都Noe西山文化創成プロジェクト等の中核的推進・支援組織としても機能。

